

第6回中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会 会議録

■日時：平成30年1月16日（火）午後6：00～午後7：30

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

奥野信宏委員長、有賀隆委員（WEB 会議で参加）、伊藤美香委員、岡田邦彦委員、岡田博子委員
水谷重信委員、種橋潤治委員、野村愛一郎委員、福永智子委員、藤井信雄委員、葛西文雄委員

■議事：

1 中心市街地拠点施設整備 基本計画（案）について

■内容

1 中心市街地拠点施設整備 基本計画（案）について

① 基本計画（案）について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・これからの事業を進めるにあたってはみなさん色んな意見があると思うが、それは最後にまとめてみなさんに一言ずついただくので、その時にご発言いただきたい。その点に配慮して、今の説明に関してご質問等があればご発言いただきたい。
- ・最初に中井委員から「中心市街地拠点施設整備基本計画（案）へのコメント」が提出されており、事務局からご説明をお願いしたい。

事務局

- ・この6回目の委員会が最後ということでコメントをいただいたのでご紹介する。
- ・複合施設では「ついで利用」に期待が寄せられるが、図書館を含む複合施設の来館者全体にアンケート調査をすると、図書館利用者は全体の80～85%を占め、その内「ついで利用」は15～20%となります。つまり、複合施設といえども「よい図書館施設」を整備しないと、施設自体が利用されません。「よい図書館施設」をハードとソフトの両面からきちんと整備した上で、はじめて様々な利用や活動が展開できると思う。
- ・施設全体に対する安心・安全、防災・減災、バリアフリーやユニバーサルデザインは、検討されていると思うが、もう少し施設、部屋や家具などへの近づきやすさ、わかりやすさといった「アクセシビリティ」に配慮した施設整備の方向性を明確にして頂きたいと感じる。物理的なバリアを除去するだけでなく、心理的なバリアの除去への配慮も必要である。
- ・駐車場については、同様に「アクセシビリティ」の視点からも、ただ台数を確保するだけではなく、利用者の「近づきやすさ」にも大きく影響を与える問題だと考えている。この拠点施設が実際に整備されるまで、いろんな視点から駐車台数の確保に向けた検討を継続して頂きたいと思う。
- ・最後に、施設も整備したら終わりではなく、そこから利用が始まる。少しでもよい施設となるためには、検討して、試して、また修正しての繰り返しが必要となる。
四日市市民に末永く愛される「拠点施設」ができることを心より祈念している。

委員長

- ・それでは、資料についてご発言いただきたい。

G 委員

- ・市民からの意見の資料の扱いはどのようになるのか。

事務局

- ・市民からの意見はこの策定委員会の資料ではなくて、私どもがこれから議会をはじめ外部に向かって説明していく場に策定委員会の資料の最後に必ず付ける形をとらせていただきたい。あくまで委員会の場の報告書として取りまとめ、後ほどご説明する資料編の中ではこの委員会の各回議事録を付けさせていただく。

G 委員

- ・今後の日程について、決まっていることがあれば教えていただきたい。

事務局

- ・今決まっているのは、市に議員説明会という制度があるが、1月24日に全議員に集まっただき、そこで基本計画の内容を説明する機会がある。その場で基本計画を説明させていただき、その中で市民の方々からの意見を付けて配布する。今回の計画では市役所東側を候補地としてどのようなものが建てられるかを検討したものであり、市議会その他の関係者と十分な協議をした上でその後実施していく。そのような状況であるため、その後いつ頃どうなるというのはここでは申し上げることは差し控えたい。

G 委員

- ・市議会への説明については理解したが、市民への計画の公表などはどこかでされるのか。

事務局

- ・市民への公表は市議会への説明後に必ず行っていくことになると思う。市議会でも市民への公表についての意見が出されるのではないかと思う。

G 委員

- ・いつも広報が分かりにくく、市民のみなさんが計画を知らないというのが残念になる。公表に関しては広報を使ったとしてもわかりやすく伝えていただきたい。

委員長

- ・有賀委員には後ほどご意見を頂戴したいが、今の段階でご質問等があればいい。

J 委員

- ・本日は所用で何うことができず申し訳ない。事務局から基本計画案を送っていただき、設置者としての考え方を大変よくまとめていただいております、この内容が将来実施に移る段階で魅力的な施設になるであろうと現段階では思っている。

委員長

- ・今の時期に大学は卒業設計や論文など審査の段階に入っているため、ご出席が難しかったと思う。では、次に資料編のご説明をお願いしたい。

② 基本計画資料編（案）について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・何かご発言があれば伺いたい。

E 委員

- ・資料編の後ろの方、駐車場・自転車駐車場関連資料の2ページ、現在の市立図書館の「定時台数」という表現がされているが、これに関連して定時台数最大というのは、その時間に駐車されている台数が最大ということか。そうすると、本編29ページの想定台数と比較するとかなり台数が増えるということになると思う。特に休日は現市立図書館で100台程度となっているのが新しい拠点施設では365台と想定されているので、3倍以上はピークで駐車されるだろうという前提で検討されていると考えてよいか。

事務局

- ・365台というのは中井委員にご教示をいただき、他都市事例から貸出冊数を3倍程度増えると想定し、さらに複合施設なので1.2倍程余裕を見た方がいいということからこの台数とした。

G 委員

- ・市役所の利用者の駐車台数をみているのか。その場合休日のピーク時が365台で足りるのか。

事務局

- ・中井委員からご教示いただいたのは休日のピーク時で、休日は市役所の利用者はないという前提で、拠点施設の利用者のみで算出している。

G 委員

- ・平日は260台プラス市役所の利用者ということになるのか。

事務局

- ・平日の260台は市役所の利用者も含めたピークとしている。

G 委員

- ・今の点は了解した。では、市役所の利用者もくすの木パーキングに止める可能性はあるのか。

事務局

- ・利用状況によっては市役所利用者もくすの木パーキングに止める可能性はあると思う。

委員長

- ・それでは、中井委員のご意見に関する部分については事務局の方で資料の一部を修正し、修正箇所は事務局から報告させていただくとともに、修正内容の決定については私にご一任いただきたい。
- ・最後に、みなさんからこの事業に対する思いや進めていこうならこうして欲しいなど、自由にご発言いただければと思う。それでは順番にお願いしたい。

E 委員

- ・この基本計画の具体化、実現については十分な議論を重ねた上で進めていただきたい。その中には市民、図書館利用者の方々の意見をうかがった上で議論をしていただきたい。
- ・この会の最初にも申し上げたが、図書館は時代とともに大きく変わっていく、利用者の方々も使い方が変わっていくことが当然起こりうる。ICTの発展やAIの技術導入など大きく変わってくるので、それらに対応できるように柔軟性をどこに持つかを工夫しながら施設の設置をしていただきたい。対応できるスペースがない、このスペースをこうしておけばよかったなど、そういうことがないように工夫していただきたい。

D 委員

- ・私はこの施設を常々中心市街地活性化の拠点の1つとして整備すると捉えているが、例えば先ほど駐車場の話が出ていたが、駐車場だけで話が完結するのではなく本編 36 ページにあるような近鉄四日市駅から中心市街地における交通体系のあり方を合わせて検討していくことを前提として自分なりに理解してきたつもりである。自動運転などの技術がこれから 5 年、10 年で進捗していくと思う。拠点施設を1つの核として中心市街地の交通体系のあり方として新しい時代にこういうものを導入していくなど、拠点施設整備と合わせ技にして示していくべきだと思う。拠点施設整備の計画書に書き込めるかわからないが、そういった書きぶりをしていただければと思う。個人的には、このような未来志向型の施設整備のきっかけになると楽しいと思う。

C 委員

- ・今日が最後の会議ということで、今までの経緯を振り返ると非常にいいものができたと感じている。前回委員会で管理運営について資料 45 ページで図書館の管理については指定管理ではなく、是非直営でと発言させていただいたが、その点も修正いただき、広さや機能など図書館専門部会で議論したことも基本的には受け入れていただき、よくここまでまとまったと感無量といったところである。
- ・今後について、図書館は建物をつくったら終わりではなくそこからスタートになるので、前回も発言したが、一番大事なのは図書館に力があること。図書館を動かす職員の人達の実力に期待をしており、日本の現状についていくとかずっと先進であり続ける。数年前に三重県図書館がずっと先進であり続けることを県民に約束すると言っておられて、ライブラリーオブザイヤーを受賞した。色んな技術を勉強したり、図書館の新しいサービスについてこんなやり方もあることを勉強する。もう一つは四日市のことをよく知り市民が何を求めているかを知る力が必要で、役所のみなさんが色んなつながりを使って市のことがよく分かった上でサービスができるという方向性が必要だと思う。さらに、種橋委員の意見にもあったが、世の中の変化は激しいので、電子化への対応だとか、学校教育も随分変わっており知識をただ吸収するだけでなく知識から新しいもの生み出すとか協力して何かをつくるなど、そういうことに対応できるよう、図書館ももっと変わらなければならない。また、書店の数が 20 年前の約半数に減ってきて、人々が普通に本を手取るチャンスが減ってきている。これから書店はもっと減っていくので、検索ではなく直接手に取って本に出会う機能が、もっと強まってくると思う。色んな変化がこれから図書館に押し寄せてくる中で、ずっといいものであり続ける図書館力を維持できるようにあってほしいと思う。これまでもこのように発言したつもりで、こうしたアイデアが生かされる案になっていると思う。

F 委員

- ・この委員会は一つの縛りがある中で協議されてきたと感じている。その中で考えてきたことは、立地する条件などを市役所東側の敷地であればこのような形になるということがこの委員会の大きな目的だったと思う。全体的に何 10 年先を見越して図書館あるいはまちづくりを検討する必要があったと思う。この会議にご参加のみなさんにご存じだが、一般の方がそういうことまで考えながら検討することはなかなかできないのが現状だと思う。先日、自治会連合会でここでの検討内容を話したら初めて聞いたという声が多く、自治会長であっても策定委員会の中身が分からないという現状がある。もう一つが、図書館の問題と中心市街地活性化の問題とマッチしないことを感じている。基本計画の内容自体は、市役所東側の敷地を設定した中で精査されてまとまってきていると思う。
- ・先ほどもご発言があったが、施設はつくって終わりではなくできてからがスタートであり、そのあたりの検討も今後進めていただけたらと思う。

G 委員

- ・図書館がよくなって欲しいと思い、図書館協議会から出てくるメンバーとしてできる限り発言してきた。場所の制約がある中で私達の意見をよく聞いて下さってここまで来れたと思う。今の時点で引っかかる部分を指摘させていただく。直営ということバシッと入れていただけていないのは残念である。図書館は直営で教育委員会が中心になって子ども達を教育していくのを四日市の柱にするくらいの思いでいる。図書館協議会のメンバーの思いであり、市民の中にもそのように思う方々がたくさんいる。ぜひ入れていっていただきたいと今でも思っている。図書館の資料購入費が3億から4億円の中に入っているというが、この資料購入費が最も大事だと思う。
- ・それから、市民の意見を聞くことについて努力をして下さって、図書館に対する色々な意見が出てうれしかった。大事な意見が数多く入っているので、市民のニーズや思いを生かしてこれから計画に反映していただきたい。市民意見が別物に扱われているように思っていて、それがあつての基本計画だと思う。せっかくお金を使っていいものが建つので、市民全体がよかったねという盛り上げがないともったいないと思うし、図書館を中心とした施設になることに市民が目向けるいい機会になると思うので、みなさんに知っていただく努力をしていただきたい。最後に、場所に関して疑問に思っている方々は今でもたくさんいるので、もう一度検討するなり丁寧な説明をしていただくなりしていただかないと、あとで困ることが起こるのではないかと心配している。

H 委員

- ・図書館をつくって終わりではないというのはその通りで、市民の期待に応える、場合によって市民の期待を超える場合があつていいと思うが、四日市の市民は恵まれているね、勉強をする機会がいっぱいあるねというように市民が思うのが一番大事である。今、子ども達の教育環境はよくなって、ご承知のように登校拒否やいじめなどが後を絶たないし、子ども達が伸び伸びと育つ環境が乏しい。その一助に新しい施設がなればと思う。
- ・2つ目は、図書館の運営に携わる方々が絶えずよりよい図書館にしていくための本気度、コミットメントがどの程度あるかが重要だと思う。これはどのような施設でも重要で、お宅の店員はよう勉強しているねと言われればお店は必ず繁盛する。図書館の運営に携わるみなさんは人材開発・育成が重要で、サービスがよくなければならない。
- ・3つ目は、50年先を見通せばいいが、なかなかそうはいかないので、内部環境や外部環境など絶えず変化があるものだという前提で読み取ることができるのはリーダー、図書館の館長だと思う。それを正しくリードする必要がある。変化対応力を運営の基本方針にさせていただけたらと思う。市民の期待を超える施設を目指していただきたい。

I 委員

- ・民間の子ども図書館を運営する立場からこの場に出ささせていただいている。子ども図書館の場合は利用する対象が限られるが、今回は公立の図書館なので健全な人もハンディキャップの人も誰もが使いやすい図書館を目指していただきたい。図書館については教育委員会主導で進めていただければと思うが、四日市の図書館計画の全体像がよりよいものになればと思う。長期間休まない図書館としていただきたいと思う。

J 委員

- ・前半でいい計画になったと少し褒めすぎたかもしれない。改めてお時間をいただいたので、残された課題について発言させていただく。この基本計画案そのものは、四日市のまちなかに新しい価値を付け、再び価値のあるものにしていくとともにその責務を背負っていると理解している。兼ねて自治体行政が公共施設をつくる時に批判を浴びていた時代があつた。ハコモノと言われるように貸館のような施設ばかりつくって、本当に市民が求めているものや工夫やアイデアを空間や場所の中に展開できていないようなもの、立派なものをつくっているが魅力がない、そういうものを総称してハコモノと揶揄され批判されていた時代がある。その問題意識はみなさん持っていると思われ、この検討委員会の最初にも意見があつたと思うが、誰がどのように企画も含めて運営していくかが

ないと、どんなに立派な施設をつくっても魅力がないものになってしまう。この委員会では民間の知恵を生かすという枠組みとして示してはいるが、実態として具体化するのはこの後に求められると思う。どうやって運営をしていくのか、それに対して行政がどのように対応するかなど、望ましくは基本計画案の中にそこまで盛り込めればみなさんの懸念はもう少し払拭されたかと思う。とはいえ、全て答えが分かってから基本計画がつけられるということはありませんので、現段階では運営の枠組みを示すことが必要だと思う。

- 2つ目は、延床約 13,000 m²、図書館で 80~90 万冊の収容能力の施設として、他都市と比べても、敷地規模の制約はあるものの建物は中核都市としてふさわしい規模や機能を有する施設になると思う。その中で司書の方々が持っている役割、地域の市民の方々が文献資料に関するニーズに応えられる「暗黙知」、最先端の ICT などの新しい「情報の知」、さらに本や文献に形式化された「形式知」、この 3 つの知がこれからの四日市の図書館に必要で、基本計画案にも反映されていると思う。今後はこれらを具体化していくことをするべきであり、さらに地域の様々な市民活動や NPO、様々な組織の具体的なアクティビティ、年間を通しての活動場所、仕組みのニーズなど具体的なことを今後の実務的な計画の中で反映する必要がある。
- 最後に、建築そのものは現在に生きる我々が利用して価値を持つものであるが、それと同時に将来に対して活動を積み重ねていける場でもあり、その記憶が継承されていく場でもあるという思いがある。そのことが単なる施設と建築の大きな違いで、建築が持つ力は記憶を継承する役割、そのための中核になる。それは空間、意匠の面で優れた建築をつくっていく。基本計画ではそこまで踏み込めないが、次のステップで盛り込む必要があり、基本計画をベースキャンプとして次に反映される道筋を行政側できちんと用意していただきたいと思っている。

B 委員

- 1 年半に渡り活発にご議論いただきお礼を申し上げる。事務局が冒頭で申したように、この場所が四日市のルーツということで検討を始めた。これから議会に諮っていくということもあり、そのまま事業方式に進むということまでは踏み込めていない。財政シミュレーションをして今後どのように税金を投入するかなども視野に入れた最終的な基本計画になっていないのは、若干もどかしいというのは私も同感である。設置者である四日市市が責任をもって次のステップへ行けるように、この計画案や今までのプロセスをしっかりと説明させていただき、それに関するご意見も頂戴しながら具体化に向けた取り組みをやっていく必要があると私も認識している。今の図書館は 45 年経過し、中心市街地の文化施設で最も新しいのは博物館だがこれも 25 年と間があいている。その中で施設を整備していくのは重要だが、私は市役所の直近の場所だけに、いい加減な施設にならないと思っており、職員が 2 千人くらい仕事をしている直近の場所に、市民の考えを反映した全国に誇るべき図書館を核とした複合施設を運営していく、その手立てを考えていくべきである。四日市市は世界に冠たる産業都市でありフロントランナーであるため、色んな知恵を絞って次のステップへ行けるように、策定委員会のみなさんのお知恵をいただいてしっかりと前を向いて進んでいきたい。そのことだけ約束をさせていただきたいと思う。

A 委員

- 教育委員会としてみなさんに感謝を申し上げたい。委員長をはじめ委員のみなさんには 6 回に渡り議論をいただき、さらに図書館専門部会では 3 回に渡ってしっかり議論ができ、印象に残る時間を共に過ごさせていただけたと思っている。毎回長時間にわたって議論いただき、様々な視点から目が行き届いた計画が策定でき、ありがたく思っている。それから、シンポジウムや懇談会を通じて多くの市民のみなさんからご意見をいただくことができ非常に有益だったと思う。さらにまちづくりや都市のあり方において図書館が大きなプラスを持つことを改めて認識できた。今まで図書館を利用していただいていた方々にはより一層満足していただき、これまで図書館をあまり利用していない方々には興味を持っていただくような、子どもや若者から働く世代や高齢の方まで多くの市民に愛される図書館を目指してきたいと改めて思う。策定委員会を通じて得たものをしっかりと活用し、今後も議論を深めていきたいと思う。これからもよろしくお願ひしたい。

委員長

- 大学を出てからもずっと大学に在籍し、学生の時には試験の前に図書館に通うようになり、大学を卒業して研究者の道を歩むようになってから図書館機能が両手両足のようになった。私が在籍していた名古屋大学の経済学部の図書館は蔵書量が充実していただけでなく非常に優秀な司書の方がいて、私がどういう分野に関心があるかを知っていて、その分野に関する新しい資料が入った時に知らせてもらったり、入手するのに手続きに時間がかかるのを融通させてもらったりしたことがある。ここ 20 年くらい自治体の図書館の業務に数多く関わらせていただいたが、20 年の間に図書館の機能が随分変わっている。みなさんから変化への対応が重要だご指摘いただいたが、まさにその通りだと思う。注目しているのは、図書館に今求めている流れとして交流・連携が非常に大事になってきており、それをどう実現していくかということだと思う。具体的な話として、先ほど音のゾーニングが大事というご意見があったが、賑やかな図書館と静かに読書を楽しむ図書館と両方を実現する配置をどうするかを考えると正にその通りで、今の時代を反映している言葉だと思う。
- 最後にみなさんからいただいたご意見をお聞きしていると、これからの議論にとって非常に大事なポイントが幾つもあったと思う。これらを計画に反映するわけではないが、事務局の方で十分ノートテイクしていただいて今後に活かしていただきたいと思う。

事務局

- 委員のみなさんには、途中で委嘱期間を延長させていただくなど長期間にわたりご議論いただき、また日程調整でご無理を申し上げたかもしれないがご協力いただき、お礼を申し上げたい。先ほど委員長からもお話があったように、中井委員からのご指摘により計画案の修正をさせていただき、委員長と調整させていただいて、修正した部分を後日ご説明させていただく。事務局としてもここでの議論で大変勉強になり頭も活性化し、新たな出会いもあり、我々の成長の糧にもなった。市としては、今後頑張ってこれを何とかものにしていけるように事務局として頑張らせていただく。どうもありがとうございました。

以上